平成１９年度多賀城市市民活動団体助成金実施報告書

# 事業名　「リン　リン　多賀城」

## ―都市活力源としての歴史の路づくり―

史跡を活かし、魅力と賑わいのあるまちづくり

NPO ゲートシティ多賀城

平成２０年３月

**ＮＰＯ** ゲートシティ多賀城

## １．はじめに

本会は、「古代東北を統治する重要な役割を担い、都に次ぐ古代都市として栄えた多賀城の歴史的風土を大切に継承し、文化財を活かしたまちづくりを展望し、将来の望ましい多賀城市のビジョンを描き、それを発信するゲートとしての機能を果たすことを目的とする。」市民団体であり、その目的を達成するため市内に所在する歴史的遺産を活かしたまちづくりに関する事業、市外に所在する歴史的遺産とのネットワーク構築に関する事業、さらに将来的に多賀城南門の復元を目指した住民意識の醸成を図る事業などを行うこととしている。

特別史跡の保存管理、活用事業については、これまで長い年月をかけて多賀城廃寺跡、多賀城政庁跡をはじめとする学術調査、土地の公有化、史跡公園としての環境整備事業、維持管理事業が進められてきた。そして、これまでの経過の中で、平成２年には特別史跡多賀城跡立体復元計画に着手され、第三次多賀城市総合計画の主要な施策の一つに位置づけられたものである。

この立体復元計画は、歴史的文化遺産の価値を深く認識し、遺跡に対する市民の理解を促し、文化財に触れ・学び・親しみを感じることのできる遺跡博物館的空間として整備活用することを基本目標として、「史都多賀城」のまちづくりの具体的事業として実施されてきたものである。その結果、平成６年度には CG を導入し「実施設計書」が作成され、平成８年度には同建物復元等管理活用計画書が作成されている。

しかし、その後多賀城跡立体復元計画は、社会的状況の変化等の影響を受け復元工事に着手されることがないまま、現在に至っている状況である。しかしながら、建物跡の立体復元は、特別史跡多賀城跡の歴史的重要性の理解と、積極的な活用を推進する上で欠くことの出来ない重要な課題として位置づけられ、整備対象区域内の未買収地の公有化と家屋移転が継続的に進められて、平成１９年度末までに多賀城南門から政庁に至る区域の公有化がほぼ終了したところである。

## ２．事業名「リンリン多賀城」の目的

多賀城は、古代東北を統治する中核的施設として設置され、その役割を果たしてきた歴史をもつ。京（都）から一千五百里の里程を有し、「遠の朝廷」として栄えた多賀城は、都に次ぐ古代都市としての威容を誇っており、広範な地域から多くの人々や様々な物が集積、拡散した土地である。いわば水紋、輪（サークル）、環、リングの核にあたる。

したがって、「リンリン多賀城」は、地域や市民が互いに手を取り合って輪を描く、輪になる、輪になってぐるぐる回ることをイメージにした事業名である。

「リンリン多賀城」の目的とビジョンは、下記のとおりである。

○目的

・多賀城の歴史的風土の継承

・文化財を活かしたまちづくりの展望

・将来の望ましい多賀城市のビジョンを提示

○５つのビジョン

(1) リンリン多賀城とは、都市を活力あるものにするための事業である。

(2) リンリン多賀城とは、歴史の流れの中に自らを位置付ける事業である。

(3) リンリン多賀城とは、場所への愛着を生み出す事業である。
(4) リンリン多賀城とは、地域資源の価値を考える機会を与える事業である。
(5) リンリン多賀城とは、なによりもまず多賀城を知るための事業である。

３.「歴史の道」詩都景観形成事業との協働事業について

市内に所在する歴史的資源を活用して文化財を活かしたまちづくりを展望し、将来の望ましい多賀城市のビジョンを描くためには、何よりもまず多賀城を知ることである。多賀城を知るため、より多くの市民とともに現地調査を行いながら、路の選定作業とマップづくりに取り組むこと、言い換えれば「都市活力源としての歴史の路づくり」である。

多賀城市では、特別史跡多賀城跡附寺跡や国の重要文化財多賀城碑をはじめとする貴重な歴史的資源の活用に向けて市民参画と協働の視点を取り入れたパイロット事業として、歴史の道・詩都景観形成事業を進めている。

そこで、リンリン多賀城の目的を達成するため、市が実施する詩都景観形成事業について“文化財を活かしたまちづくり”に向けて、
市と協働して－「歴史の道」ルートの作成（提案）－を行うため、市民参画を呼びかけて事業に着手したものである。

４．実施概要

○実施経過

| ７　８　９ | １０　１１ | １２　１　２　３ |
|---|---|---|
| 助成金プレゼンテーション | 歴史探索ツアー（２回） | 歴史探索ツアー（１回）<br>ワークショップ（４回） |
| 打ち合わせ会（６回） | 打ち合わせ会（８回） | 打ち合わせ会　（５回） |

○歴史探索ツアーの実施

「歴史の道」を提案する上で、現状の認識が大切であり、現地観察を主眼とした探索ツアーを計画・実施した。実施するにあたり、市民へ参加を呼びかけて、多賀城の資源とは何か、多賀城に存在する多様な視点等について、市民の目線で一緒に観察することを目的とした。

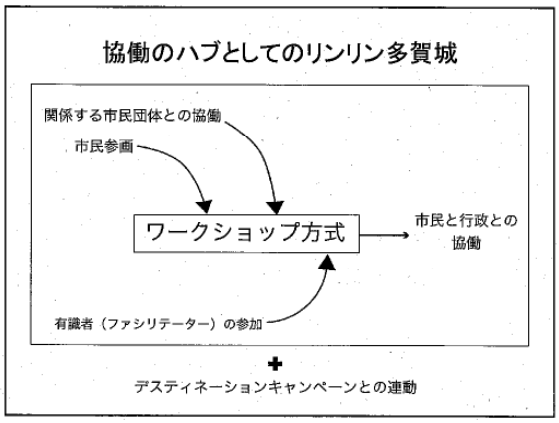
（実施日時）

・１０月２７日(土)９：３０～１２：００　雨天のため、参加者は３０人であった。
・１１月１７日(土)９：３０～１２：００　晴天に恵まれ、１２５人の参加で行った。
・　３月　１日(土)９：３０～１２：００　ＷＳで検討した探索ルートを再検証するため、現地を再確認する目的で実施した。

○「歴史の道」ルート作成ワークショップの開催

本事業を効率的、効果的に進めるために、専門的なノウハウを有したファシリテーターとして、特定非営利活動法人都市デザインワークスのアドバイスを受けながら実施したものである。

ワークショップは、全５回開催した。各回のワークショップをスムーズに運営するため、都市デザインワークスとの事前打ち合わせを行い、ワークショップの手法を学びながら行った。




〈ワークショップの開催状況〉

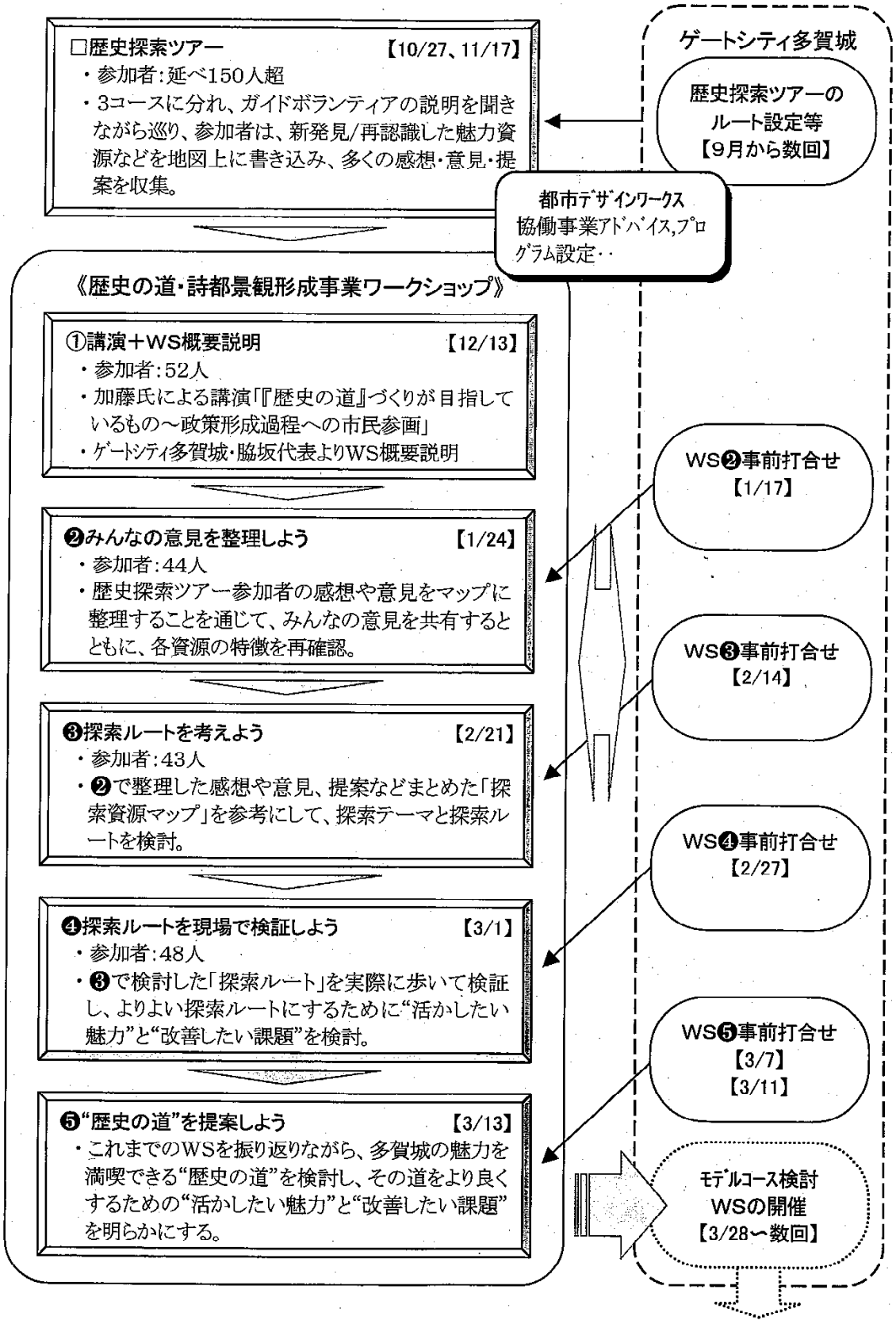
| テーマ | 開催日 | 参加人数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 第1回<br>講演「歴史の道」づくりが目指しているもの<br>～政策形成過程への市民参画 | 平成 19 年<br>12 月 13 日(木) | 52 | 講師：加藤哲夫氏<br>※本業務外 |
| 第2回<br>「みんなの意見を整理しよう」 | 平成 20 年<br>1 月 24 日(木) | 44 | |
| 第3回<br>「探索ルートを考えよう」 | 平成 20 年<br>2 月 21 日(木) | 43 | |
| 第4回<br>「探索ルートを現場で検証しよう」 | 平成 20 年<br>3 月 1 日(土)<br>9:00～12:00 | 48 | 中央公園集合<br>5コースに別れて探索・検証 |
| 第5回<br>「“歴史の道”を提案しよう」 | 平成 20 年<br>3 月 13 日(木) | 31 | |

ワークショップのようす

歴史探索ツアーのようす

〈ワークショップの流れ〉

■ワークショップの流れ　　※●の部分が本業務



４．「歴史の道」モデルコースの提案

本事業の終着点は、「歴史の道」として相応しいコースを選定し、提案することにある。そのため、より多くの市民と協働して前述のとおりワークショップを通じて選定を行ったものである。

５回にわたるワークショップに基づき、歴史探索ツアーを振り返りながら、多賀城の魅力を満喫できる“歴史の道”を検討し、その道（ルート）をより良くするための「活かしたい魅力」と「改善したい課題」について意見交換を行い、それを表にまとめた。（別表参照）

さらに、改善する課題については、住民・地域が取り組むこと、行政が取り組むこと、協働で取り組むことに整理した。また、モデルコースを選定するに当たり、テーマ別の楽しみ方も踏まえて・歴史遺産コース・自然満喫コースとして検討を行った。

**－提案するモデルコース－　（地図添付）**

◎歴史遺産コース

A．歴史基本コース（所要時間：２時間）

（A －１）国府多賀城駅→多賀城廃寺跡→東北歴史博物館→館前遺跡→多賀城南門・多賀城碑（壺の碑）→政庁跡→多賀城南門→館前遺跡→国府多賀城駅

（A －２）中央公園（駐車場）→多賀城南門・多賀城碑（壺の碑）→政庁跡→多賀城東門跡→作貫地区官衙跡→あやめ園→中央公園（駐車場）

B．歴史たっぷりコース（所要時間：６時間３０分）

国府多賀城駅→多賀城廃寺跡→東北歴史博物館→南北大路跡・漏刻モニュメント→《砂押川土手》→多賀城南門・多賀城碑（壺の碑）→政庁跡→六月坂地区→《加瀬沼》→大畑地区官衙跡→陸奥総社宮→多賀城東門跡→作貫地区官衙跡→あやめ園→国府多賀城駅

＊１：本コースの地図中にある眼マーク(VP)は、景観・眺望の良い場所（ﾋﾞｭｰポイント）を表している。

＊２：《》は、オプションコースとして取り入れた。

◎自然満喫コース

C．万葉たっぷりコース（所要時間：１時間）

国府多賀城駅→今野家住宅→万葉の森→多賀城廃寺跡→さざんかの森→東北歴史博物館東縁園路→国府多賀城駅

D．自然たっぷりコース（所要時間：２時間）

加瀬沼（駐車場）→加瀬沼南縁園路（野草）→外郭北辺築地跡展望デッキ→陸奥総社宮（白木蓮・老杉・銀杏）→多賀城東門跡→作貫地区官衙跡（木蓮・野草）→あやめ園 →多賀城南門・多賀城碑（桜・紅葉）→政庁跡（桜）→六月坂地区（しだれ桜）→加瀬沼（駐車場）

５．モデルコースの課題提案について（地図参照）

歴史の道探索コースにこんなルートがあったらいいな、との提案がなされたところです。早い時期に実現できる方法を検討して頂きたく、課題として提案するものです。

(1) 国府多賀城駅から多賀城南門（多賀城碑）への最短コースの整備

コース：国府多賀城駅～東北本線沿いの水路（蓋架けられており、園路として利用する）～館前遺跡（園路整備）～中央公園東側サッカー場の通路（既存）～中央公園駐車場内～南北大路（復元予定）～多賀城南門跡

(2) 多賀城南門から政庁跡へ通じる城内大路の整備（南門政庁間道路の整備）

多賀城南門～多賀城碑～県道泉・塩釜線を横断（横断歩道の設置）～城内大路（道路整備）～政庁跡

(3) 政庁跡から大畑地区官衙跡・東門跡へ通じる園路の整備

政庁跡～史跡管理事務所～大畑地区農道～大畑地区官衙跡～城内東西道路跡（整備済）～東門跡

６．歴史の道・詩都景観形成事業への提言

〇モデルコースの整備実現に向けて

今回提案するモデルコースは、多賀城市の歴史・文化を知るためには欠かすことの出来ない、いわば基本中の基本であり“核”となるエリアである。多賀城市を訪れたときにはまず１番先に行ってほしい場所である。多賀城跡を知らずして多賀城の歴史は語れない。したがって、コースの第１のテーマは勿論「歴史遺産である遺跡」であり、歴史景観を補完している樹林、草木、起伏に富んだ地形などの「自然環境」である。近年、当市域においても急激に都市化の侵攻により、緑地が減少しており、土地区画整理事業等で生産緑地とされる水田が宅地化されてきている。市域においては、史跡が所在する特別史跡周辺の丘陵緑地が占める割合が高く、現在では貴重な緑地として位置づけされている。

「歴史の道」モデルコースの提案は、市が主導する詩都景観形成事業とタイアップして行ったものである。コースの選定に当たっては、多くの市民の参画のもと現地探索に基づいて、市民の目線で活用したいところや改善したいところについてワークショップを行い検討したものである。したがって、今回提案のモデルコースは、市民による提案の性格をもち、活用したい魅力の活用のアイデアとして行政が行うものだけではなく、市民や地域住民が主体で行うことについても提案している。また、改善したい課題についても同様である。

今回のこのような取組は、行政にとっても市民にとっても初めてのことであり、最近、行政がよく言葉にするまさに「市民との協働」の事業であると言えよう。

樹木に名称プレートを付けることや山野草・万葉植物などを保護したり、植栽することなどは、市民ができることの一つであり、大路の幅がわかるような植栽なども市民が史跡の整備や活用に関わることができる活動の例として、今後の活動計画に取り組める

ものと思われる。

一方、行政側が行う具体的な項目については、できるものから積極的な取組が必要であり、史跡来訪者に対するわかりやすい説明板や遺跡の表示、散策路（園路）の整備、来訪者に対する休憩・便益施設の整備などは、当面早期に取り組むべき課題である。さらには、南門から政庁へ通じる大路の整備や多賀城南門の復元についても、早期に実現してほしいとの要望が強く、実現に向けた取組みを期待するものである。